

## 経済レポート

## グラフで見る関西経済(2016年12月)

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

## 【今月の景気判断】

関西経済は横ばい圏で推移しているが一部に持ち直しの動きが見られる。生産は、均してみれば持ち直しの動きが見られる。実質輸出も持ち直しの動きが見られる。雇用環境をみると、有効求人倍率が高水準で推移する中、就業者数が増加するなど緩やかに持ち直している。賃金は持ち直しの動きが見られる。個人消費は横ばい圏で推移しているが、百貨店販売など一部に弱い動きがみられる。住宅着工は、横ばい圏で推移している。設備投資は、持ち直しの動きが一服している。公共投資は、2015年度補正予算の執行や16年度予算の前倒し執行もあって増加基調で推移している。先行きについては、海外経済が緩やかな回復基調をたどる中、輸出、生産などが緩やかに持ち直すと見込まれる。個人消費や住宅投資など家計部門は横ばい圏での推移となろう。関西経済は緩やかな持ち直しが見込まれる。

## 【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	→		→	輸出			
個人消費	→		→	輸入	→		→
住宅投資	→		→	生産			
設備投資	→		→	雇用			→
公共投資			→	賃金	→		→

(注)1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

(注)2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

## 【当面の注目材料】

- ・世界景気～英国のEU離脱問題の行方、中国等新興国経済の動向、トランプ新政権の経済政策とトランプ相場の行方
- ・企業活動～電子部品デバイスの生産・在庫動向、設備投資計画の進捗状況、インバウンド消費の先行き
- ・政策～金融政策枠組み変更後の追加緩和の可能性、2016年度補正予算の効果
- ・家計～賃金の改善状況、物価動向の家計消費への影響、資産価格変動の影響

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る関西経済」の見方】参照

**【各項目のヘッドライン】**

項目	11月のコメント	12月のコメント	ページ
1. 景気全般	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる	3~4
2. 生産	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる	5~7
3. 雇用	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	8~9
4. 賃金	横ばい圏で推移している	持ち直しの動きが見られる	9~10
5. 個人消費	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	11~13
6. 住宅投資	持ち直しが一服	横ばい圏で推移している	13~14
7. 設備投資	持ち直しの動きが一服している	持ち直しの動きが一服している	14~16
8. 公共投資	増加基調で推移している	増加基調で推移している	16~17
9. 輸出入	輸出、輸入ともに横ばい	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい	18~19
10. 物価	緩やかに低下	緩やかに低下	19
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	20
12. 倒産	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数は減少、負債総額は増加	20

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(\*) 参考資料:「グラフでみる景気予報」 <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

**【前月からの変更点】**
**1. 景気全般**

生産、輸出に持ち直しの動きが見られる。

**4. 賃金**

9月の近畿圏の現金給与総額(加重平均)は、所定内給与は同+0.3%と小幅ながら3ヶ月連続で増加した。

**6. 住宅投資**

10月の近畿圏の住宅着工戸数は、前年比-4.1%と3ヶ月連続で減少した。季調済戸数は年率13.3万戸と2ヶ月連続で増加したが、これまでと比べると水準は低く、持ち直しが一服したまま横ばい圏の推移となっている。

**9. 輸出入**

11月の近畿地区の実質輸出は前月比+2.9%と2ヶ月連続で増加した。

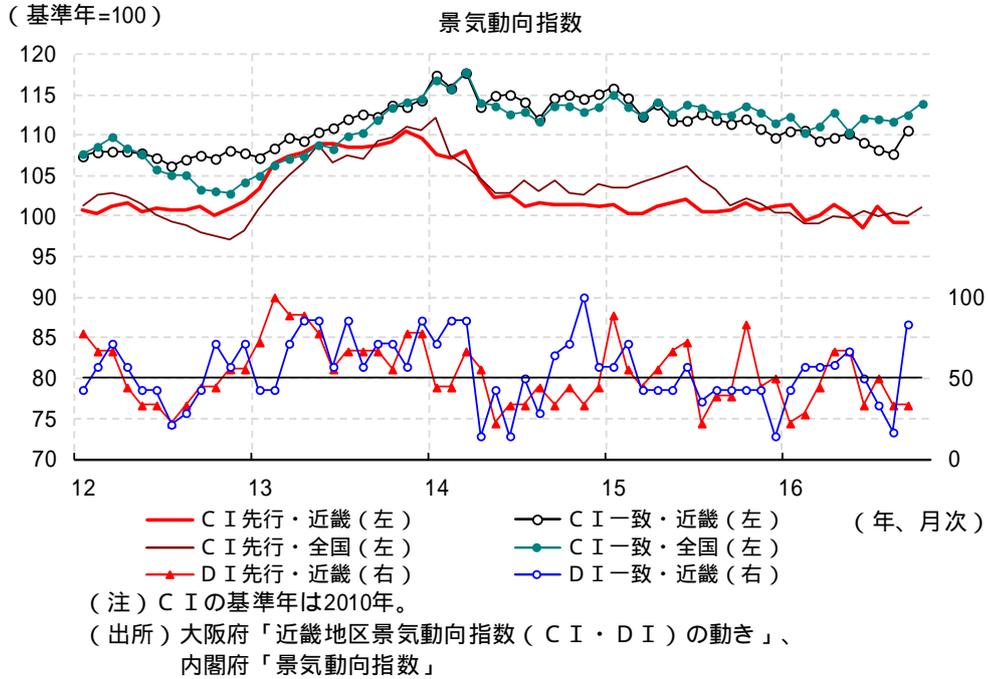
**【主要経済指標の推移】**

経済指標		15	16	16	16	16	16	16	16	16	16	
		10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	6	7	8	9	10	11
景気全般	景気動向指数(近畿)CI先行指数(05年=100)	101.2	100.3	100.1	99.9		98.5	101.1	99.2	99.3		
	CI一致指数( " )	110.8	110.1	109.7	108.8		109.1	108.2	107.7	110.6		
	DI先行指数(%ポイント)	59.3	31.5	55.6	38.9		33.3	50.0	33.3	33.3		
	DI一致指数( " )	33.3	52.4	58.3	44.4		50.0	33.3	16.7	83.3		
	景気ウォッチャー調査 現状判断DI( " )	51.8	45.1	40.2	45.0		39.8	43.2	45.7	46.3	49.3	52.5
	(近畿、季節調整値) 先行判断DI( " )	50.1	46.6	44.2	48.3		39.4	46.5	48.8	49.9	51.4	53.0
	日銀短観(近畿)業況判断DI 製造業(%ポイント)	4	-3	-2	0	-2	0	<3月予想>				
	非製造業( " )	11	8	4	6	2	2	<3月予想>				
	法人企業統計(近畿)経常利益 製造業(兆円)	0.8	0.5	0.7	0.4							
	非製造業(兆円)	0.5	0.5	0.7	0.6							
生産	鉱工業生産(近畿)(季節調整済、前期比・前月比)	-0.7	0.6	0.8	0.1		-1.5	-0.9	0.9	5.1	-2.3	
	鉱工業出荷(近畿)( " )	-1.1	-0.1	1.6	0.6		-1.5	1.0	-1.0	4.5	-0.7	
	鉱工業在庫(近畿)( " )	-0.1	1.1	2.1	0.2		-0.2	-1.7	0.8	1.2	-4.3	
	鉱工業生産(近畿)鉄鋼( " )	-0.8	1.1	-0.7	0.8		-2.0	1.6	-0.7	1.7	-1.4	
	金属製品( " )	-4.9	17.2	-15.3	-8.7		-8.5	4.2	-3.0	-0.5	-2.0	
	一般機械( " )	-2.9	-0.9	8.7	-3.2		-11.9	-3.2	-6.3	34.0	-11.3	
	輸送機械( " )	0.5	-4.7	0.2	1.9		4.5	-1.6	-2.9	14.3	-4.2	
	電気機械( " )	2.3	1.5	-2.9	7.8		10.8	0.2	1.8	-3.2	-3.1	
	化学( " )	1.9	-0.6	0.5	-0.9		-5.5	-2.8	7.8	-3.5	2.4	
雇用	完全失業率(近畿)(%)	3.4	3.4	3.8	3.8		3.7	3.6	4.1	3.8	3.3	3.0
	就業者数(近畿)(万人)	896	891	885	891		887	871	890	911	916	916
	雇用者数(近畿)建設業(前年差、万人)	1	-1	-3	5							
	製造業( " )	7	14	0	2							
	運輸業、郵便業( " )	1	-2	-4	-1							
	卸売業、小売業( " )	10	4	1	4							
	医療、福祉( " )	1	9	20	16							
	サービス業(医療、福祉以外)( " )	-5	-4	2	10							
有効求人倍率(近畿)(季節調整済、倍)	1.17	1.20	1.27	1.29		1.28	1.29	1.28	1.29	1.31	1.32	
新規求人倍率(近畿)( " )	1.82	1.88	2.01	1.99		1.97	1.93	2.00	2.04	2.00	2.12	
賃金	現金給与総額(近畿)	-0.7	0.4	0.7	-0.2		1.5	-0.2	-0.4	-0.1		
	所定内給与(近畿)	-0.7	0.4	0.1	0.9		0.0	0.1	0.2	0.3		
	所定外給与(近畿)	-0.5	0.4	0.1	0.8		1.4	-0.1	0.0	-1.9		
	勤労者世帯(含む農家)の名目収入(近畿)勤め先収入	4.3	2.9	-0.1	0.7		-3.6	-6.9	8.7	3.9	3.5	7.4
	定期収入	-1.3	-0.3	3.1	7.2		3.2	2.5	12.3	7.1	5.3	9.7
個人消費	勤労者世帯(含む農家)の名目消費支出(近畿)	-0.8	-5.6	-6.2	-3.6		-9.7	-3.3	-6.7	-0.3	-10.2	0.2
	大型小売店販売状況(近畿)百貨店+スーパー	0.5	-0.1	-2.2	-3.2		-2.6	-0.2	-4.6	-5.2	-2.1	
	コンビニエンス・ストア販売状況(近畿)	5.2	5.9	4.5	4.8		4.4	5.1	3.9	5.3	5.5	
	家電大型専門店販売額(近畿)	-0.8	-2.3	-1.7	-3.9		0.8	5.0	-14.8	-2.1	0.1	
	新車登録台数(近畿)	-7.8	-6.2	-0.1	-0.6		-5.9	-3.3	1.4	0.0	0.7	11.1
	消費者態度指数(近畿、一般世帯)(原数値)	41.0	40.7	41.3	42.0		42.4	41.4	41.9	42.6	41.3	39.7
住宅投資	新設住宅着工戸数(近畿)(季節調整済年率換算、千戸)	132.7	147.1	147.3	142.0		144.6	168.4	126.5	131.0	132.8	
	(前年比、%)	3.3	13.8	5.3	4.8		-11.5	27.6	-7.3	-2.2	-4.1	
設備投資	法人企業統計季報(近畿)設備投資 製造業	-5.8	-0.3	13.3	-1.5							
	非製造業	-1.6	-8.2	-16.9	-9.1							
	企業立地件数(近畿)(件)						15		12			
公共投資	公共工事請負額(近畿)	-9.2	9.3	-2.7	26.4		-13.7	30.1	32.2	18.0	-5.5	-11.7
輸出入	実質輸出(近畿)(季節調整済、10年=100)	101.8	104.1	105.2	105.8		108.5	105.3	106.5	105.6	106.1	109.2
	通関輸出(大阪税関)輸出総額	-6.5	-9.0	-9.6	-10.3		-7.3	-12.7	-9.4	-8.9	-10.9	1.1
	実質輸入(近畿)(季節調整済、10年=100)	113.7	119.8	116.4	117.2		118.5	114.1	120.0	117.6	111.9	117.4
	通関輸入(大阪税関)輸入総額	-11.4	-14.6	-15.4	-16.9		-15.2	-25.3	-12.6	-12.0	-19.9	-7.3
物価	消費者物価指数(近畿)生鮮食品を除く総合	0.3	0.3	-0.1	-0.3		-0.5	-0.4	-0.6	-0.7	-0.7	-0.7
	食料及びエネルギーを除く総合	0.7	0.6	0.4	0.1		0.0	-0.1	-0.4	-0.5	-0.2	-0.3
金融	国内銀行預金残高(近畿)	2.0	1.6	2.9	3.4		3.5	3.7	3.8	3.7	3.9	
	国内銀行貸出金残高(近畿)	0.6	0.1	0.5	1.1		1.2	1.4	1.2	0.5	0.4	
倒産	倒産件数(近畿)	-9.1	-5.6	-10.0	-5.4		-5.1	-24.1	2.3	9.6	-9.4	-9.8

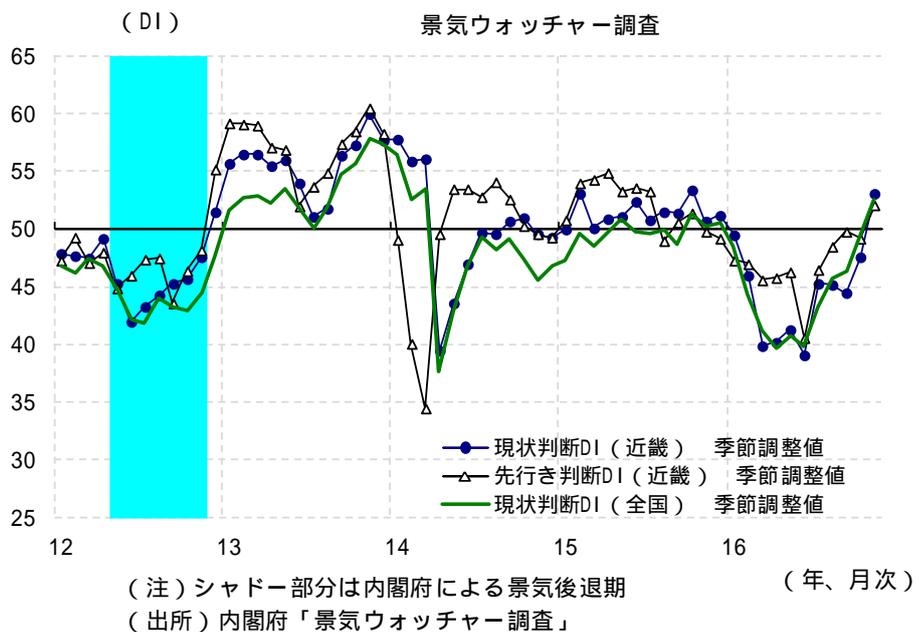
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ~横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる

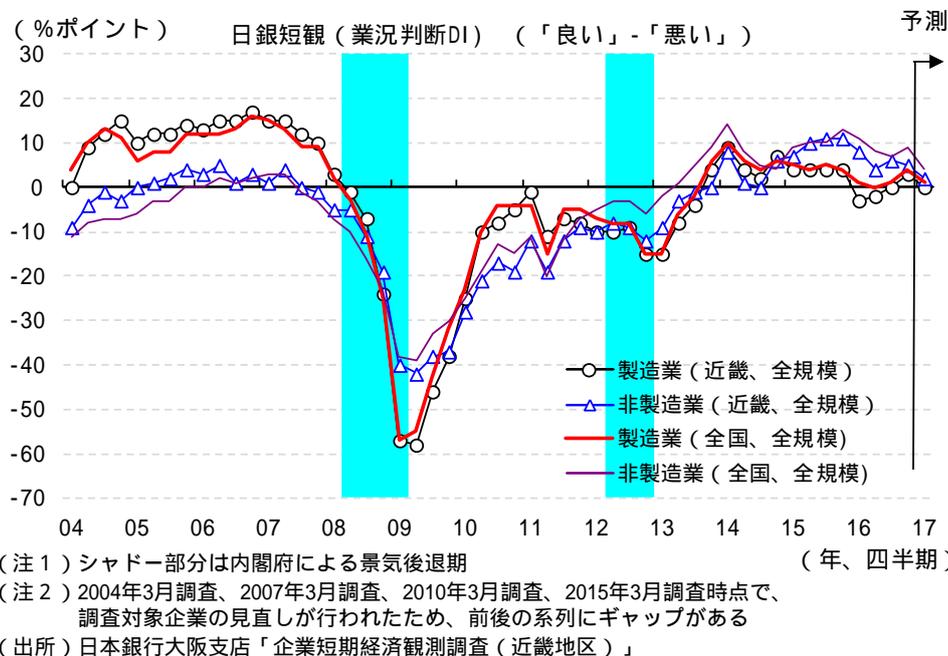
9月の近畿地区の景気動向指数・C I一致指数は前月差+2.9ポイントの110.6と4ヶ月ぶりに上昇した。採用7系列のうち、鉱工業生産指数、鉱工業出荷指数、輸入通関額など4系列がプラスに寄与した。また、C I先行指数は同+0.1ポイントの99.3と2ヶ月ぶりに上昇した。採用系列9つのうち、鉱工業在庫率指数、新設住宅着工戸数、日経商品指数など4系列がプラスに寄与した。



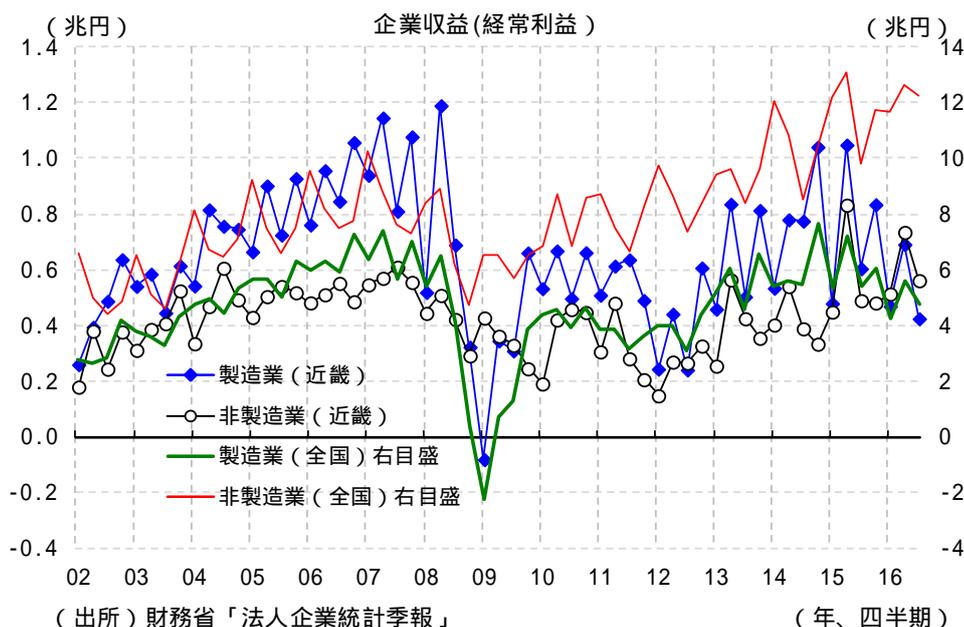
景気ウォッチャー調査によると、11月の近畿地区の現状判断D I(季節調整値)は前月差+5.5ポイントの53.1と2ヶ月連続で上昇し、全国(52.5)とほぼ同水準となっている。先行き判断D I(季節調整値)は、同+2.9ポイントの52.1と2ヶ月ぶりに上昇した。先行きについても全国(53.0)とほぼ同水準となっている。



日銀短観12月調査によると、近畿地区の業況判断DI(「良い」-「悪い」)は全産業(全規模)で+4と前回9月調査から2ポイント改善した。製造業(全規模)は+3と9月調査から3ポイント改善し、非製造業(全規模)は+5と9月調査から1ポイント悪化した。規模別では、中小企業は9月調査から悪化した。先行きについては、製造業、非製造業ともに全ての規模で悪化が見込まれている。

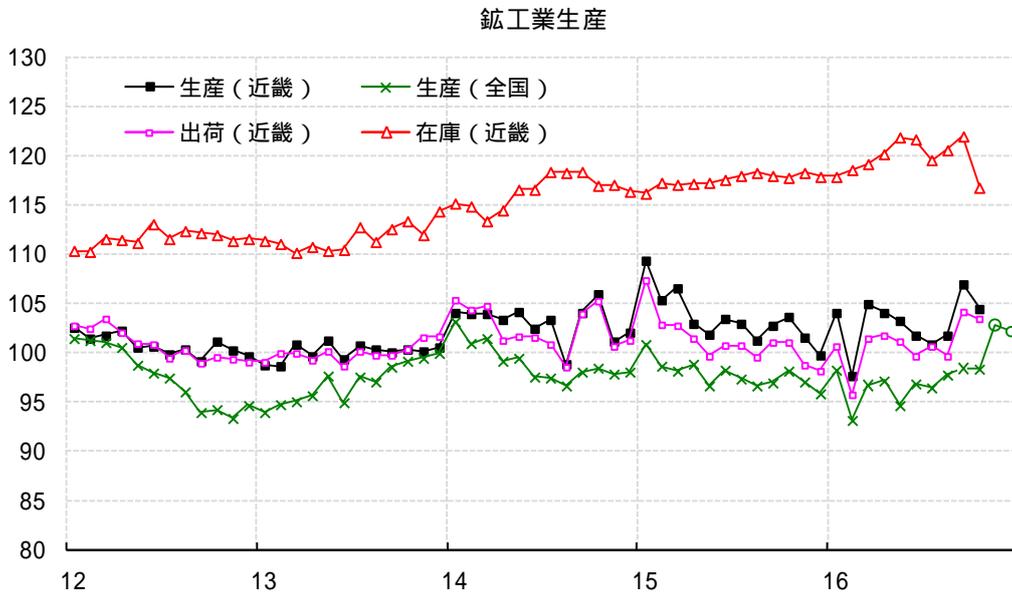


2016年7~9月期の近畿地区の大企業の経常利益(全産業)は、前年比-9.9%と2四半期連続で減少した。製造業は同-29.7%と5四半期連続で減少し、非製造業は同+14.7%と2四半期ぶりに増加した。日銀短観12月調査では、16年度は全産業・全規模で同-15.8%、製造業同-22.0%、非製造業同-6.6%と減益の見込みとなっている。

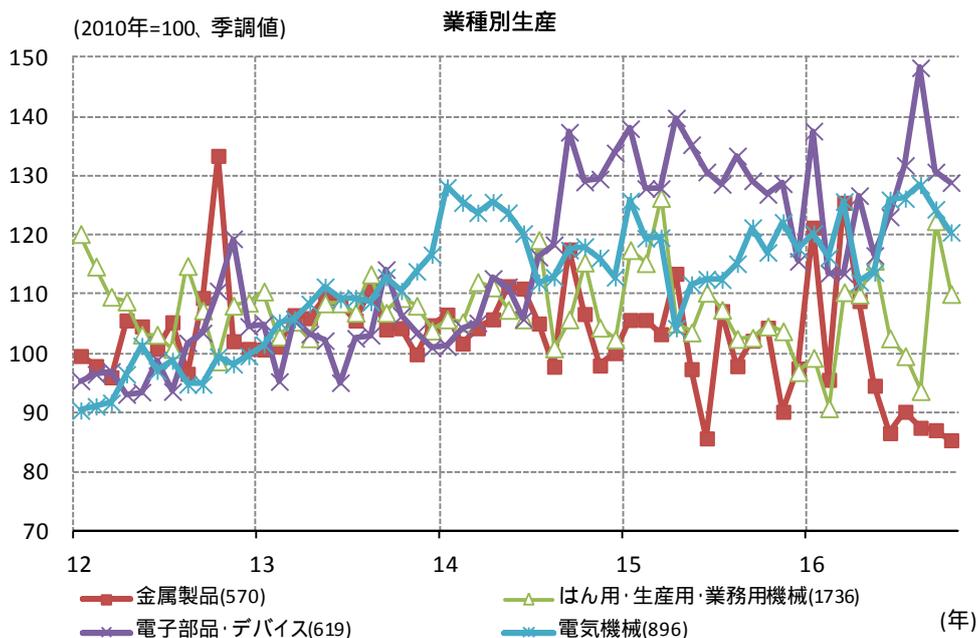


## 2. 生産 ~持ち直しの動きが見られる

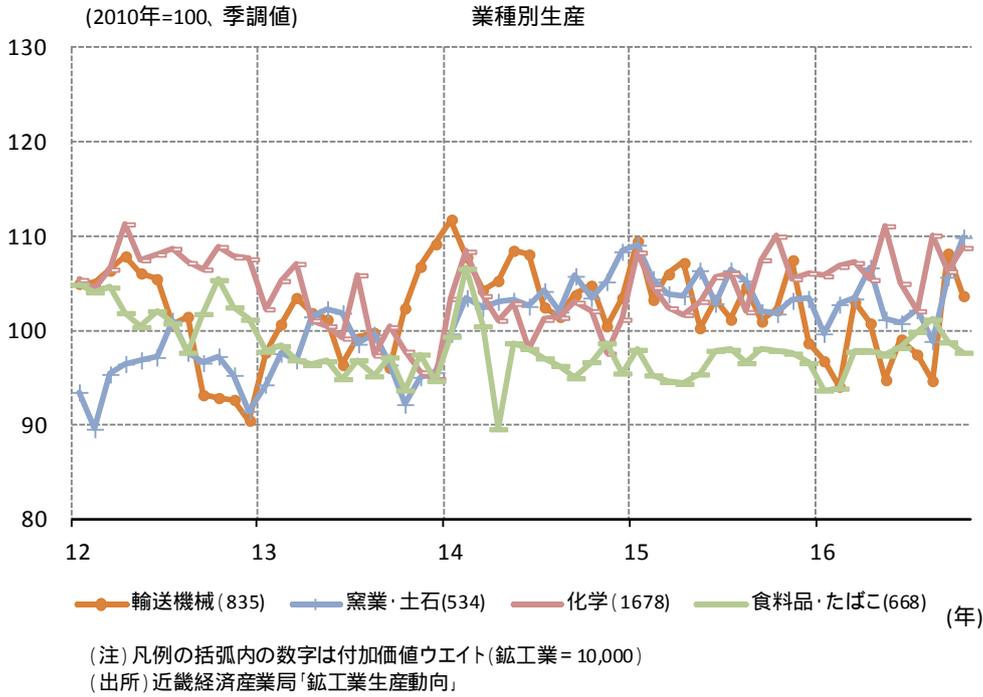
10月の近畿地区の鉱工業生産は前月比 - 2.3%と3ヶ月ぶりに減少したが、均してみれば持ち直しの動きが見られる。窯業・土石製品、輸送機械（除く航空機・鋼船・鉄道車両）などが増加したが、はん用・生産用・業務用機械、電気機械などが減少した。世界経済の緩やかな回復が見込まれる中、在庫も足下で減少しており、今後の生産は、緩やかながらも持ち直しが見込まれる。



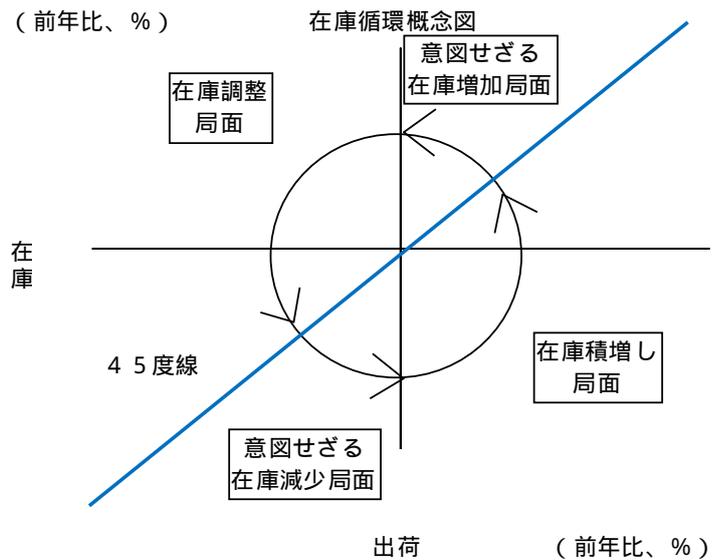
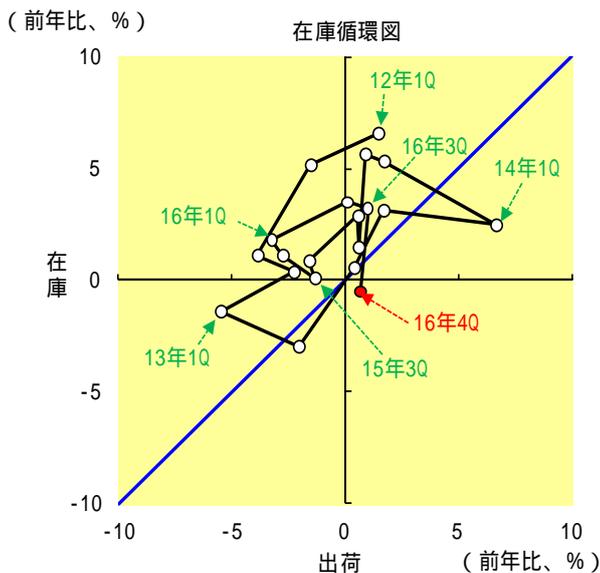
(注) 生産(全国)の「」は製造工業生産予測調査結果に基づく予測。 (年、月次)  
 予測基準年は2010年  
 (出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」



(注) 凡例の括弧内の数字は付加価値ウエイト(鉱工業 = 10,000)  
 (出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」



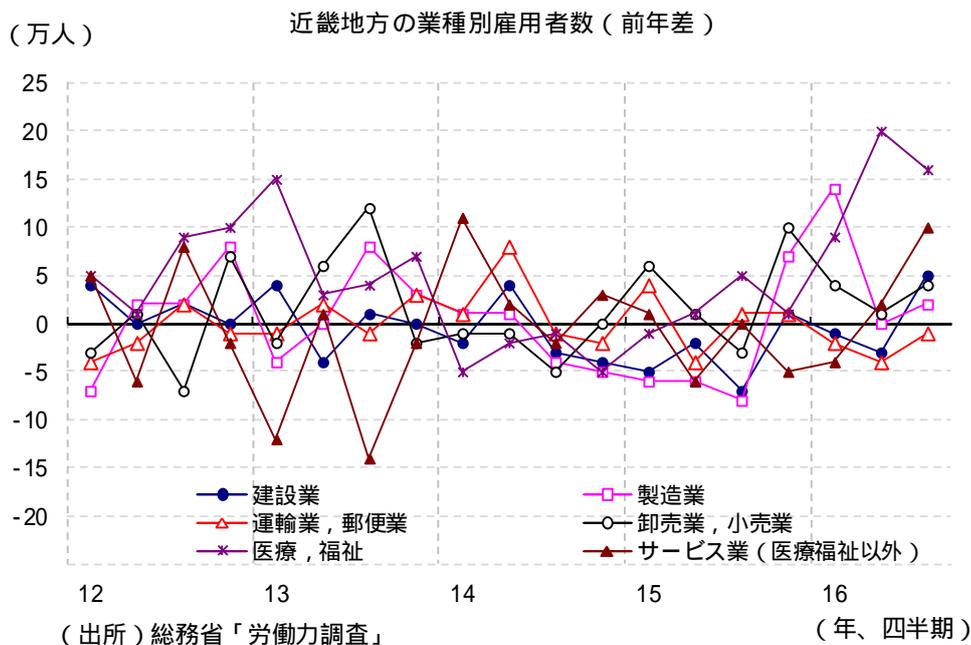
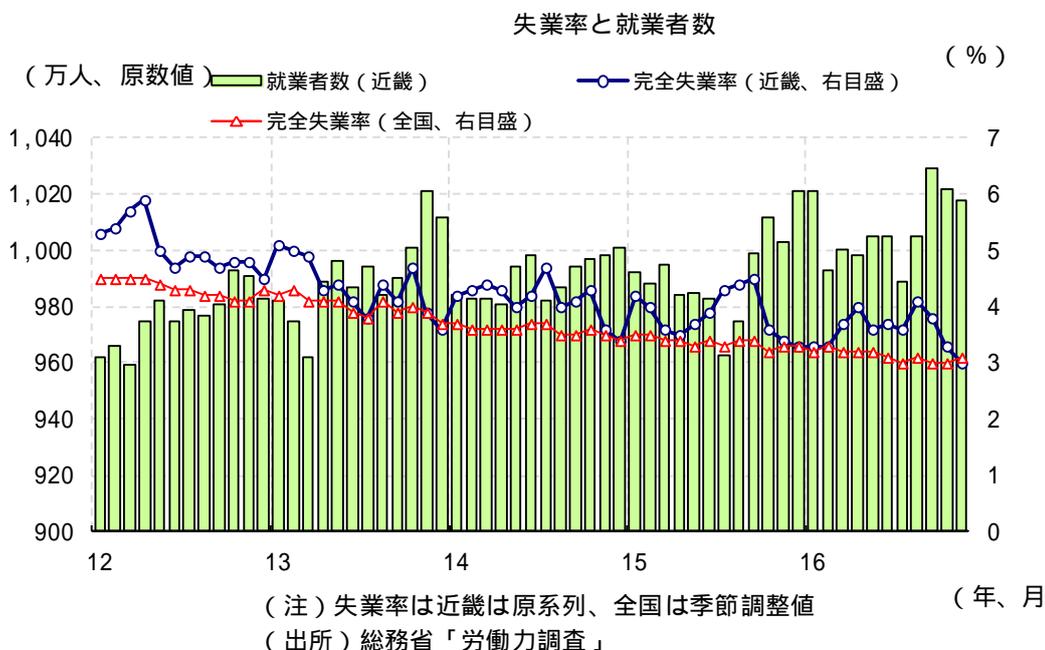
10月の近畿地区の鉱工業出荷は前月比 - 0.7%と2ヶ月ぶりに減少した。電気機械、石油・石炭製品などが増加したが、はん用・生産用・業務用機械、金属製品、電子部品・デバイスなどが減少した。鉱工業在庫は同 - 4.3%と3ヶ月ぶりに減少した。プラスチック製品、繊維などが増加したが、電気機械、電子部品・デバイスなどが減少した。



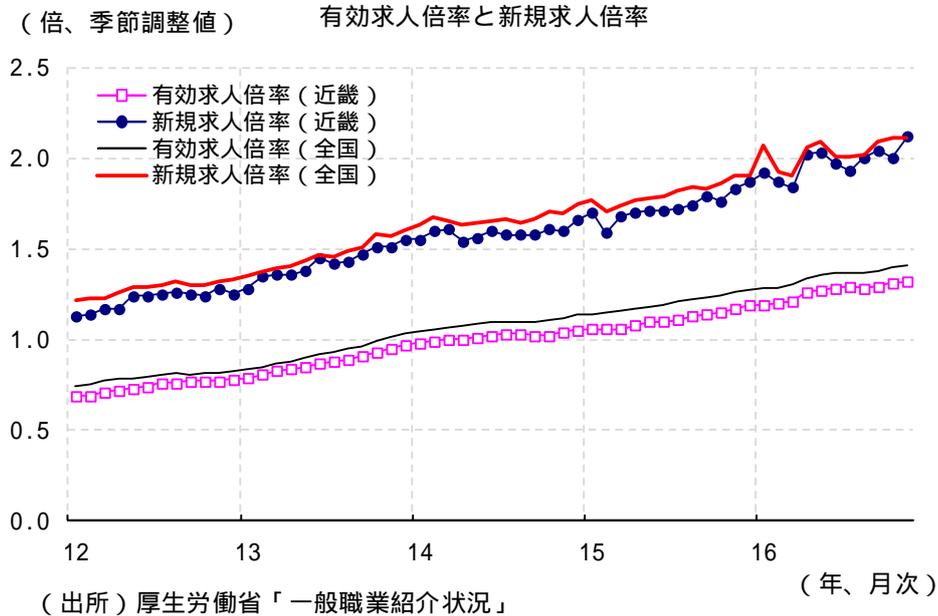
(注) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値  
 直近16年4Qの出荷、在庫は10月の前年比  
 (出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

### 3. 雇用 ~ 緩やかに持ち直している

11月の近畿の完全失業率は前年差 - 0.4%ポイントの3.0%と7ヶ月連続で前年を下回った。雇用者数は前年差26万人の増加、就業者数は同15万人の増加、完全失業者数は同4万人の減少となった。業種別(7~9月期)に雇用者数をみると、運輸業・郵便業などが減少する一方、医療・福祉、サービス業(医療・福祉以外)、建設業、製造業などが増加した。景気は横ばい圏で推移しており、今後も雇用の持ち直しの動きは緩やかであろう。

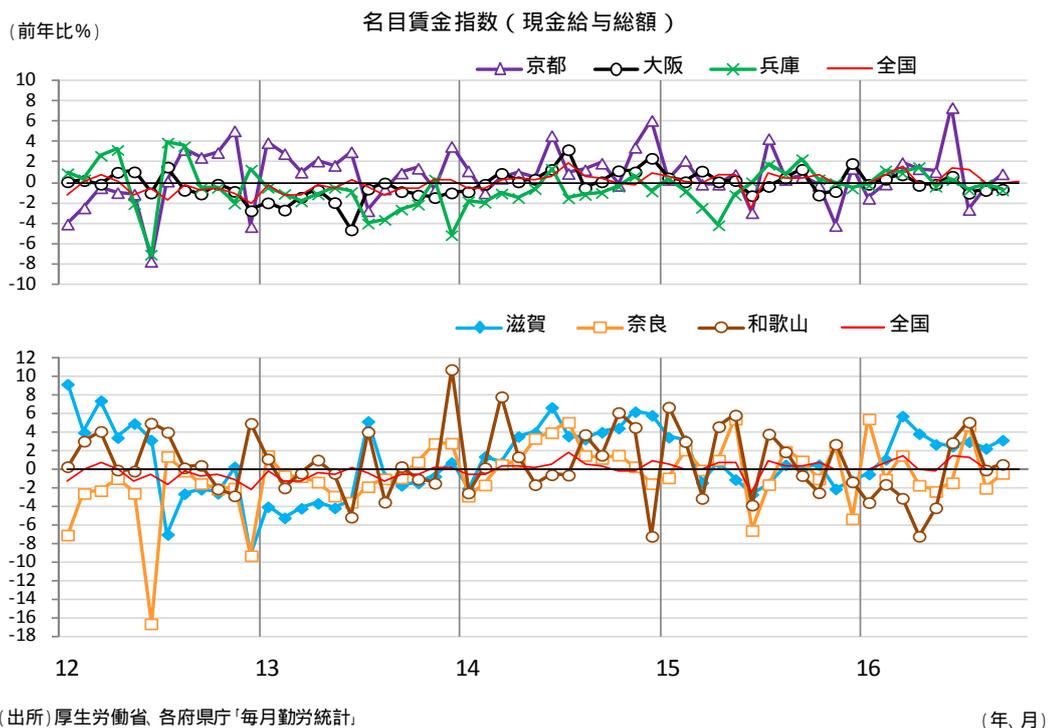


11月の近畿圏の有効求人倍率は前月差+0.01ポイントの1.32倍と3ヶ月連続で上昇した。有効求人数が前月比+1.0%と2ヶ月連続で増加し、有効求職者数が同-0.2%と3ヶ月連続で減少した。一方、有効求人倍率に先行する新規求人倍率は前月差+0.12ポイントの2.12倍と2ヶ月ぶりに上昇した。新規求人数は前月比+5.7%と2ヶ月連続で増加し、新規求職申込件数は同-0.1%と2ヶ月ぶりに減少した。

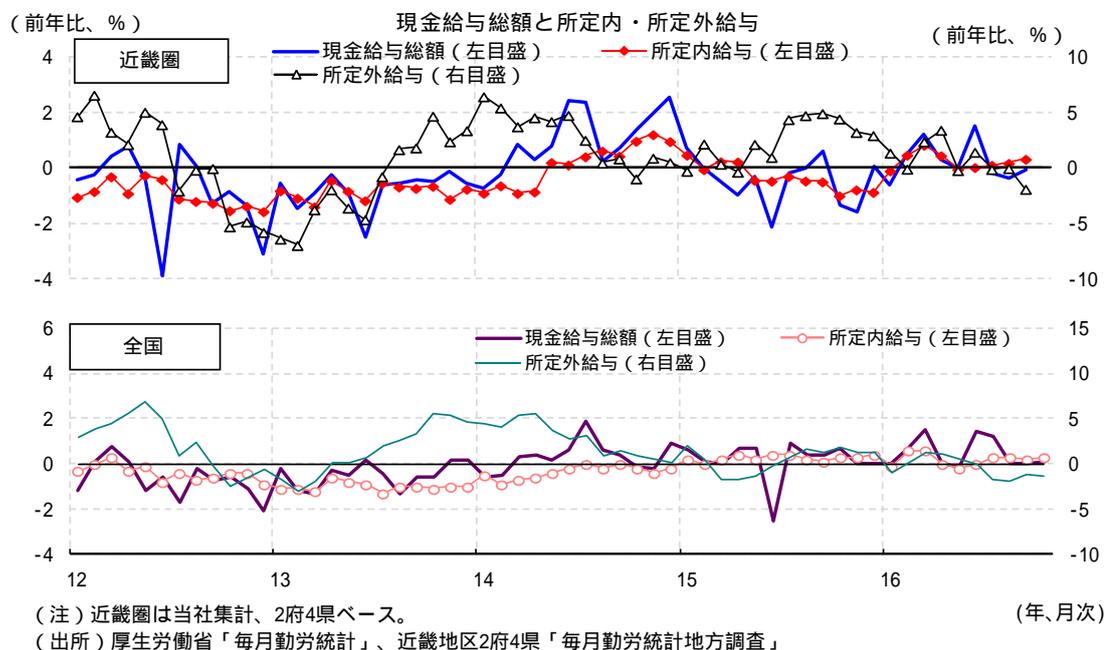


#### 4. 賃金 ~ 持ち直しの動きが見られる

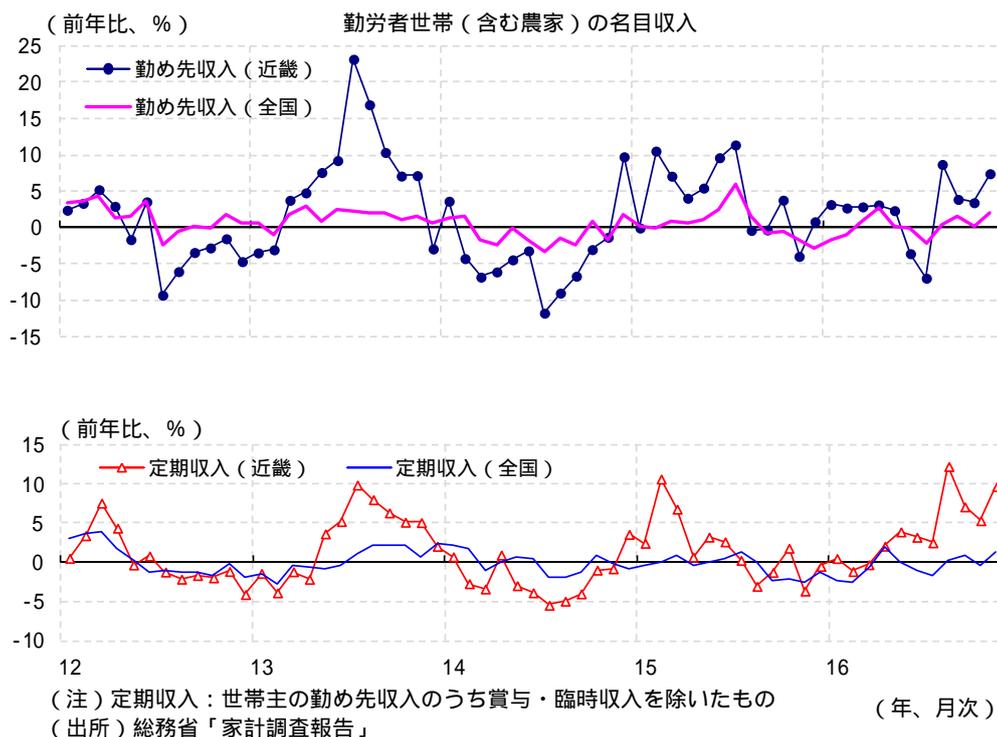
9月の名目賃金指数(現金給与総額)は、滋賀(前年比+3.2%)は8ヶ月連続、和歌山(同+0.6%)は2ヶ月ぶり、京都(同+0.9%)は3ヶ月ぶりに上昇した。一方、大阪(同-0.6%)、兵庫(同-0.7%)は3ヶ月連続、奈良(同-0.4%)は2ヶ月連続で低下した。関西の賃金は、名目賃金指数の動きに見られるように、均してみると横ばい圏で推移しているが、足下で所定内給与が増加するなど持ち直しの動きが見られる。



9月の近畿圏の現金給与総額(加重平均)は前年比-0.1%の26.5万円と小幅ながら3ヶ月連続で減少した。一方、定期給与は同+0.2%と小幅ながら4ヶ月連続で増加した。内訳をみると、所定外給与は同-1.9%と2ヶ月ぶりに減少したが、所定内給与は同+0.3%と小幅ながら3ヶ月連続で増加した。

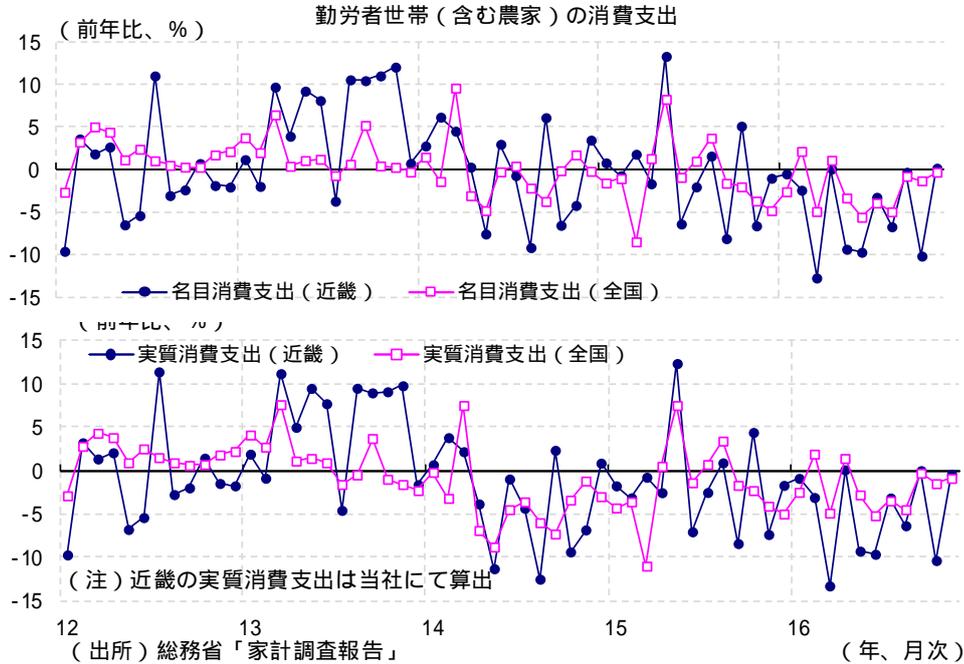


家計調査によると、11月の近畿圏の勤労者世帯(含む農家)の勤め先収入は前年比+7.4%の42.6万円と4ヶ月連続で増加した。また、世帯主の勤め先収入は前年比+10.6%の38.8万円と4ヶ月連続で増加した。世帯主の勤め先収入の内訳をみると、賞与・臨時収入を除いた定期収入は同+9.7%の37.9万円と8ヶ月連続で増加した。

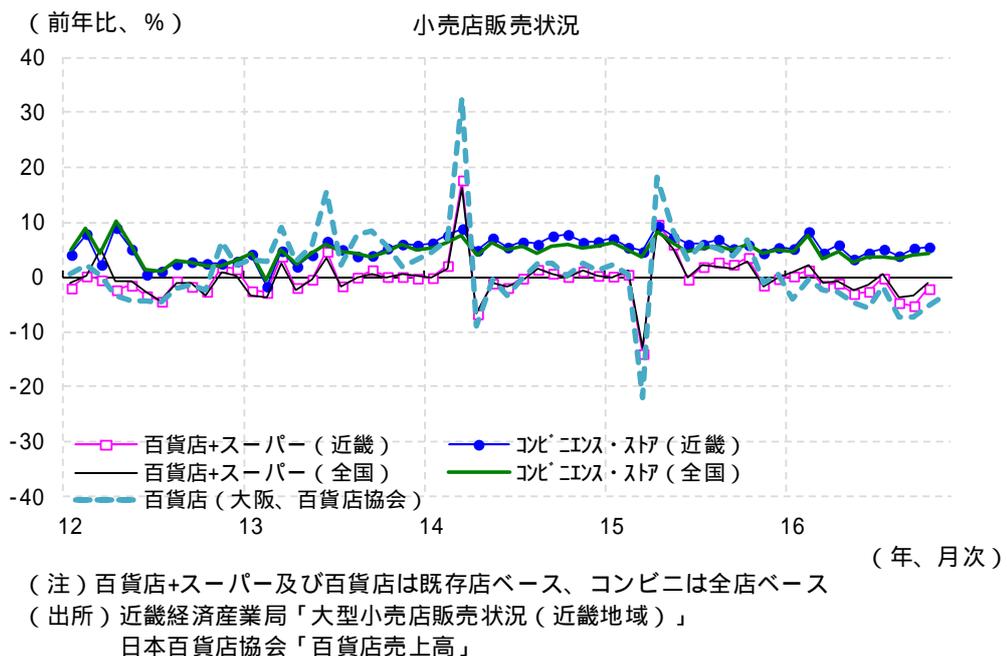


## 5. 個人消費 ~ 横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き

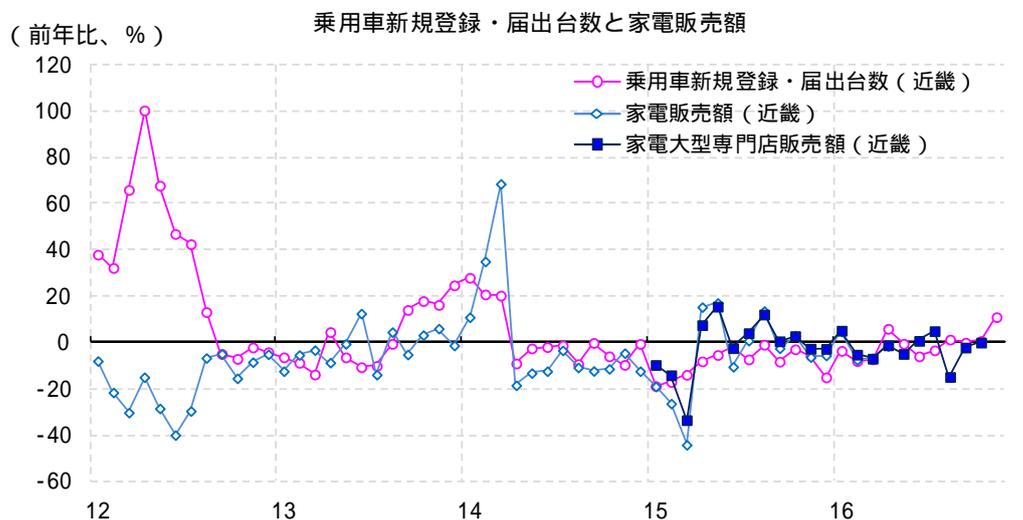
家計調査によると、11月の近畿圏の勤労者世帯(含む農家)の名目消費支出は前年比+0.2%と7ヶ月ぶりに増加したが、物価の上昇分を除いた実質では同-0.4%と7ヶ月連続で減少した。関西の個人消費は供給サイドの統計も含めて均してみると、横ばい圏で推移しているものの一部に弱い動きがみられる。今後も、実質所得の持ち直しが限定的となる中、横ばい圏での推移が続くと見込まれる。



10月の近畿地区の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額は、既存店で前年比-2.1%と8ヶ月連続で減少、全店では同-1.7%と3ヶ月連続で減少した。コンビニエンス・ストアの販売額(全店)は同+5.5%と44ヶ月連続で増加した。11月の大阪の百貨店売上高(百貨店協会)は、休日1日減の影響もあり同-3.5%(店舗調整後)と11ヶ月連続で減少したが、気温低下で婦人物を中心に冬物衣料品が堅調となり減少幅が縮小した。

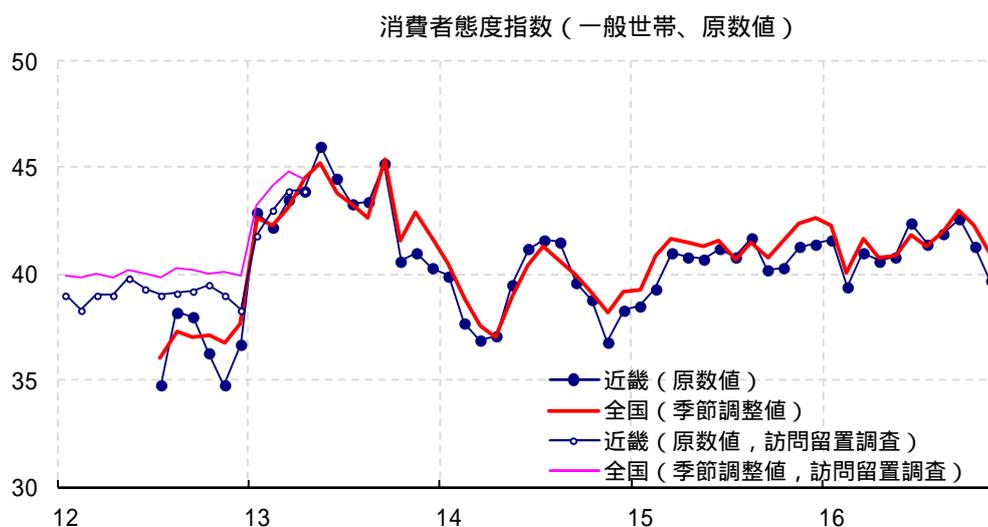


11月の近畿地区の乗用車新規登録・届出台数は前年比+11.1%と2ヶ月連続で増加した。軽自動車は前年比-1.4%と23ヶ月連続で減少したが、小型車は同+15.7%と7ヶ月ぶりに増加し、普通車は同+19.1%と4ヶ月連続で増加した。府県別では、2府5県全てで増加した。また、10月の近畿地区の家電大型専門店販売額は、前年比+0.1%と小幅ながら3ヶ月ぶりに増加した。



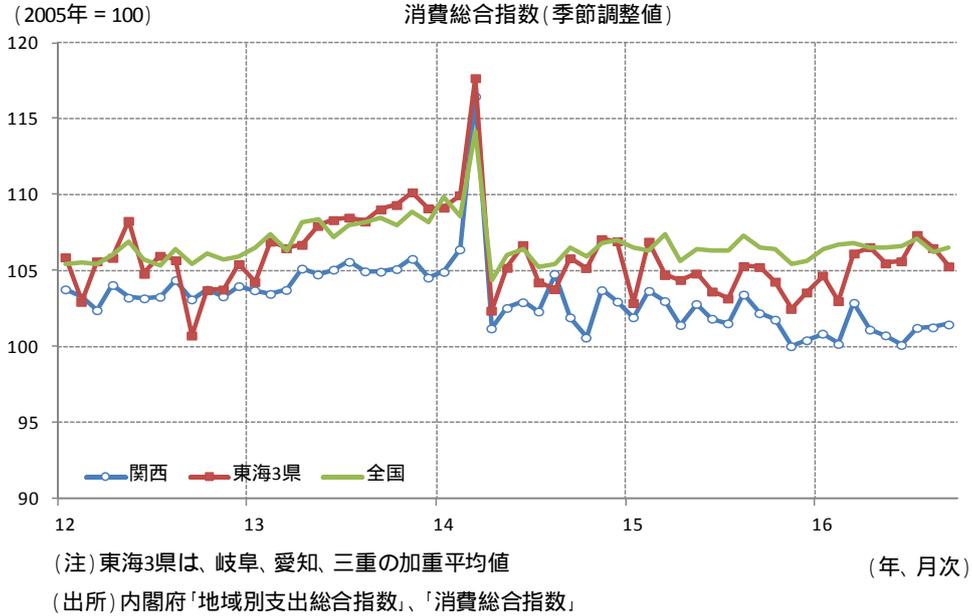
(注) 近畿の乗用車新規登録・届出台数は2府5県(福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)、家電販売額は福井県を除く2府4県。  
 (出所) 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、近畿経済産業局「近畿経済の動向」、経済産業省「商業動態統計」

消費者マインドを表す消費者態度指数(近畿、一般世帯、原数値)は、11月は前月差-1.6ポイントの39.7と2ヶ月連続で低下した。近畿の消費者マインドはこのところ弱含んでいる。今後については、景気に持ち直しの動きが出ているものの、内外情勢の先行き不透明感が続く中で、消費者マインドは横ばい圏での推移が見込まれる。



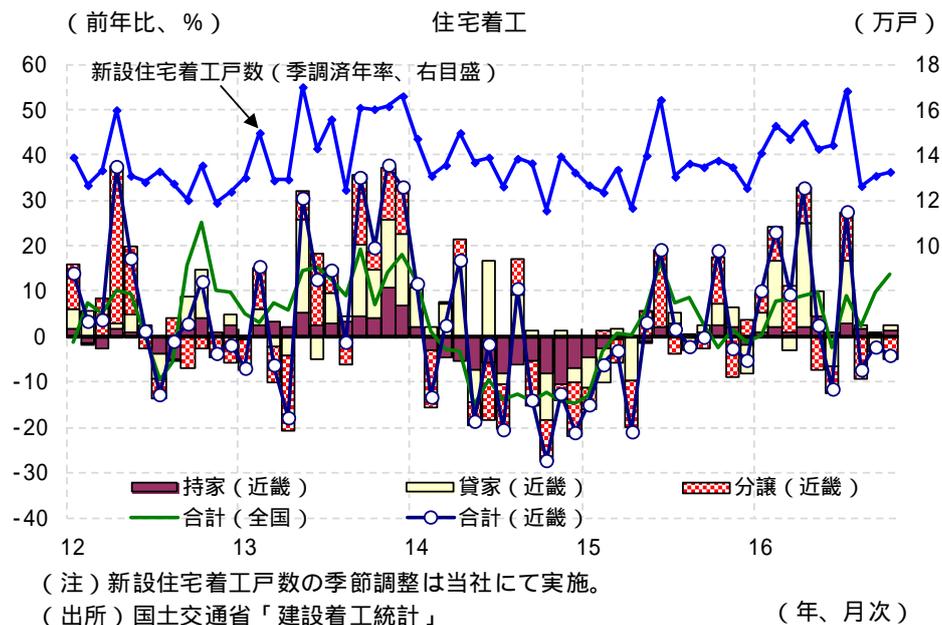
(注) 2013年4月調査より調査方法等を変更したため、それ以前の訪問留置調査の数値と不連続が生じている。郵送調査の2012年7月~2013年3月は試験調査による参考値。  
 (出所) 内閣府「消費動向調査」

内閣府が11月に公表した地域別消費総合指数によると、関西のサービス消費を含む個人消費の動向は、14年4月の消費税率引き上げ後、水準を下げた横ばい圏で推移している。

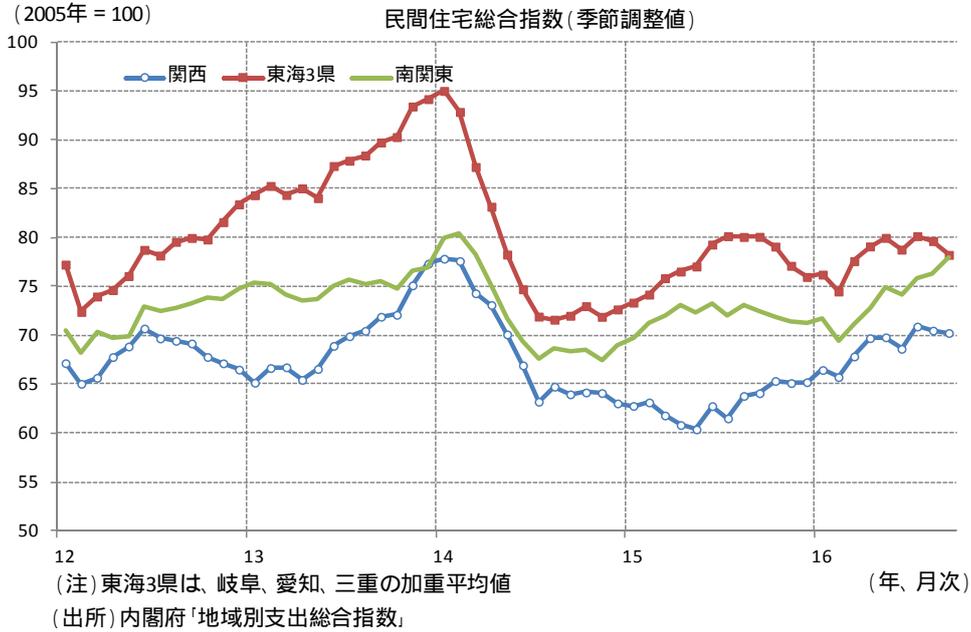


## 6. 住宅投資 ~ 横ばい圏で推移している

10月の近畿圏の住宅着工戸数は、前年比 - 4.1%の12,346戸と3ヶ月連続で減少した。持家は10ヶ月連続で、貸家は2ヶ月ぶりに増加したが、分譲が2ヶ月ぶりに減少した。季調済戸数は年率13.3万戸と2ヶ月連続で増加したが、これまでと比べると水準は低い。近畿の住宅着工は、相続税対策や低金利の影響による持ち直しが一服し、横ばい圏で推移している。先行きについても、横ばい圏での推移が見込まれる。

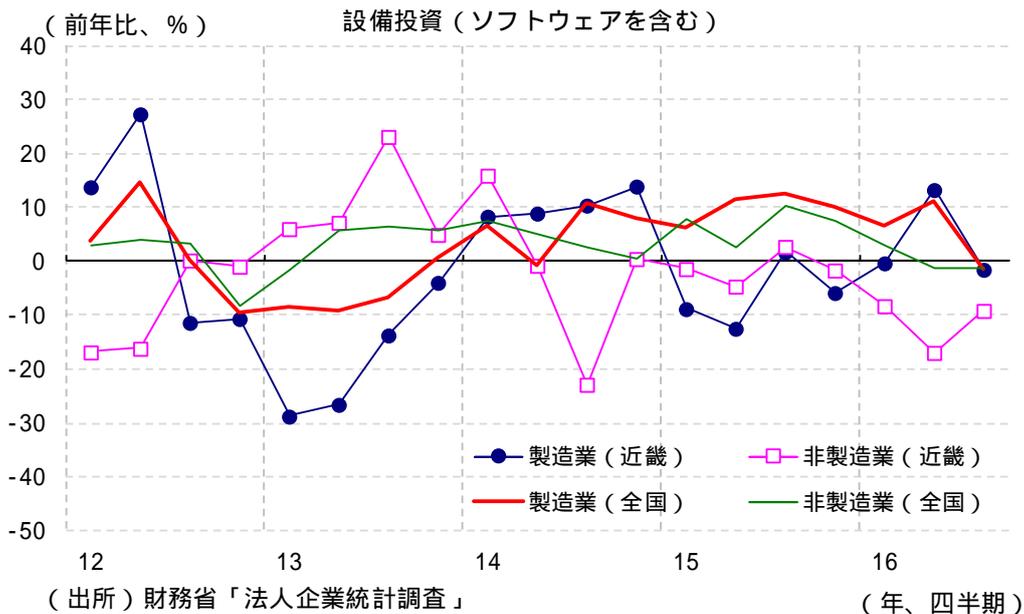


内閣府が11月に公表した地域別民間住宅総合指数によると、関西の工事進捗ベースでの住宅投資の動向は、14年1月をピークに急速に低下したが、14年7月以降は低下ペースが緩やかとなった。その後、15年半ば以降は上昇基調に転じたが、足下で持ち直しが一服している。

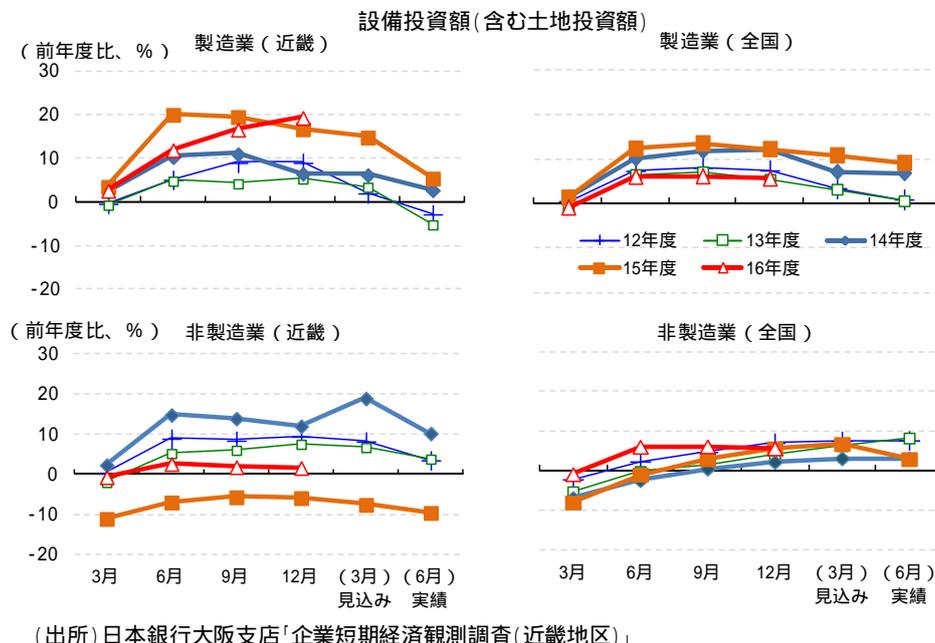


## 7. 設備投資 ~ 持ち直しの動きが一服している

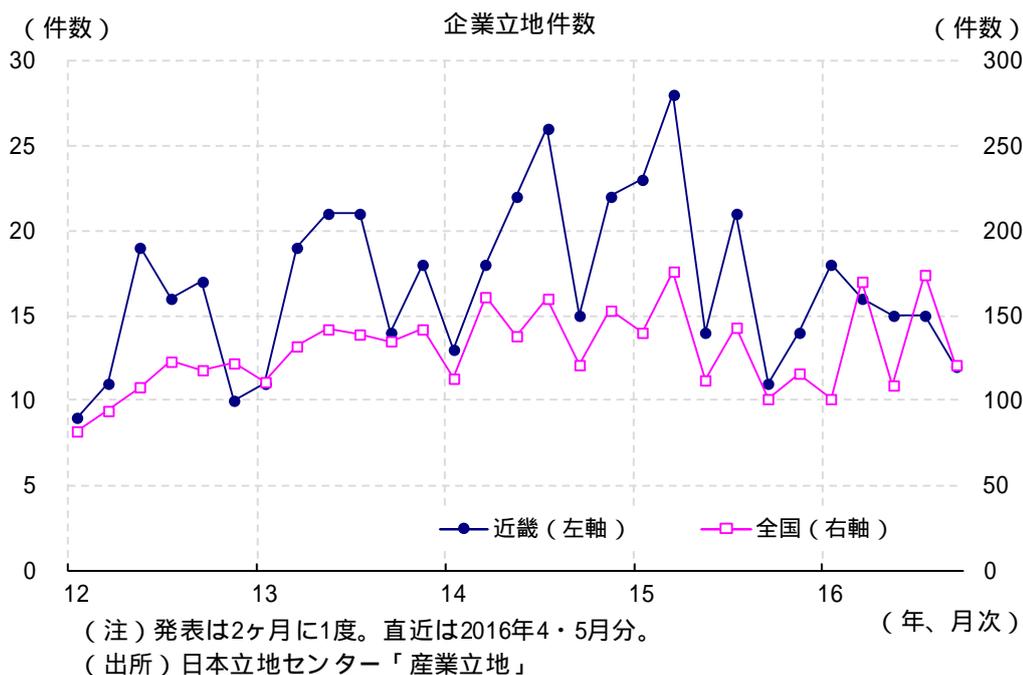
2016年7~9月期の関西の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は前年同期比 - 5.4%と4四半期連続で減少した。内訳をみると、製造業は同 - 1.5%と2四半期ぶりに減少し、非製造業も同 - 9.1%と4四半期連続で減少した。関西の設備投資は、全国を上回る伸びが計画されているものの、足下までの実績を見ると、持ち直しの動きが一服している。



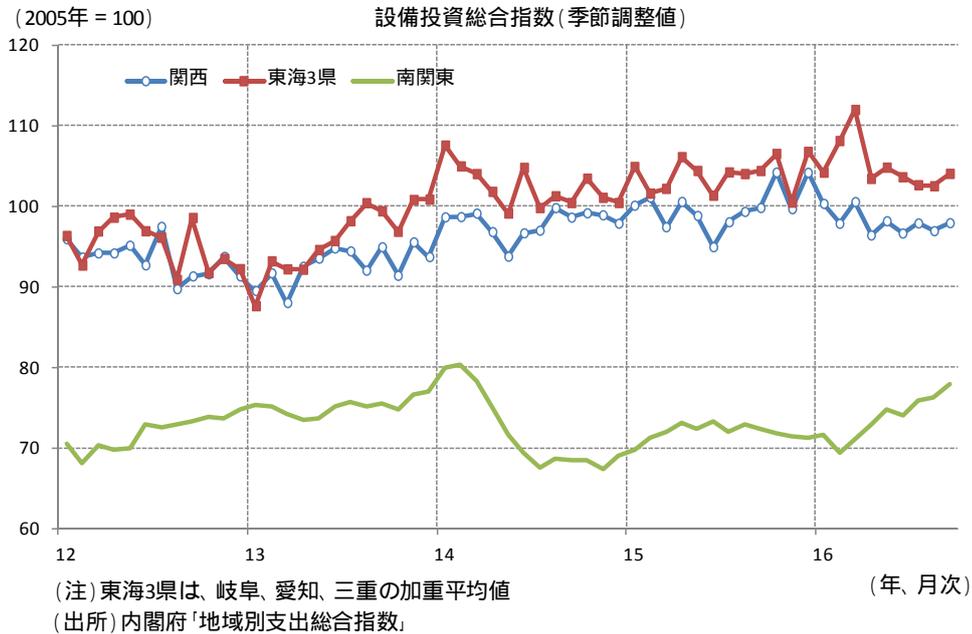
日銀短観12月調査によると、関西の16年度の設備投資計画は、全産業は前年比+8.8%と前回9月調査に比べ上方修正された。上下別に見ると、上期は下方修正、下期は上方修正となっている。年度計画の内訳を見ると、製造業は同+19.4%と9月調査に比べて上方修正され、前年12月調査時の15年度計画(同+16.8%)を上回る計画となっている。一方、非製造業は同+1.7%と前回9月調査に比べて下方修正となった。



近畿地区の2016年8・9月の企業立地件数は12件と、前期(6・7月;15件)を下回ったが、前年同期(11件)をわずかに上回った。近畿地区の企業立地は15年度前半は減少傾向で推移していたが、15年度後半以降は横ばい圏で推移している。

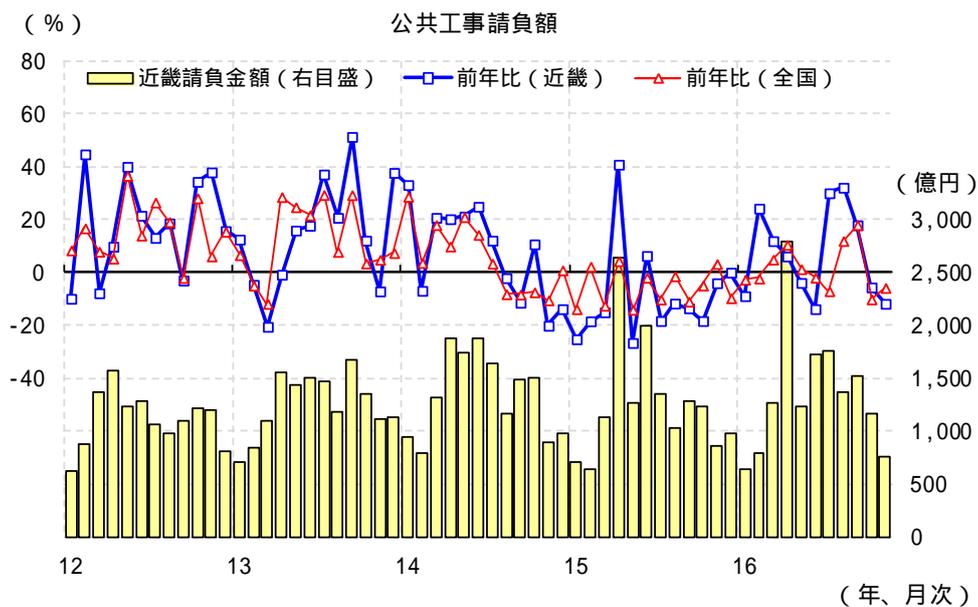


内閣府が11月に公表した地域別民間企業設備投資総合指数によると、関西の民間企業設備投資は、14年以降は均してみると横ばい圏で推移しているが、16年に入ってからやや弱含んでいる。

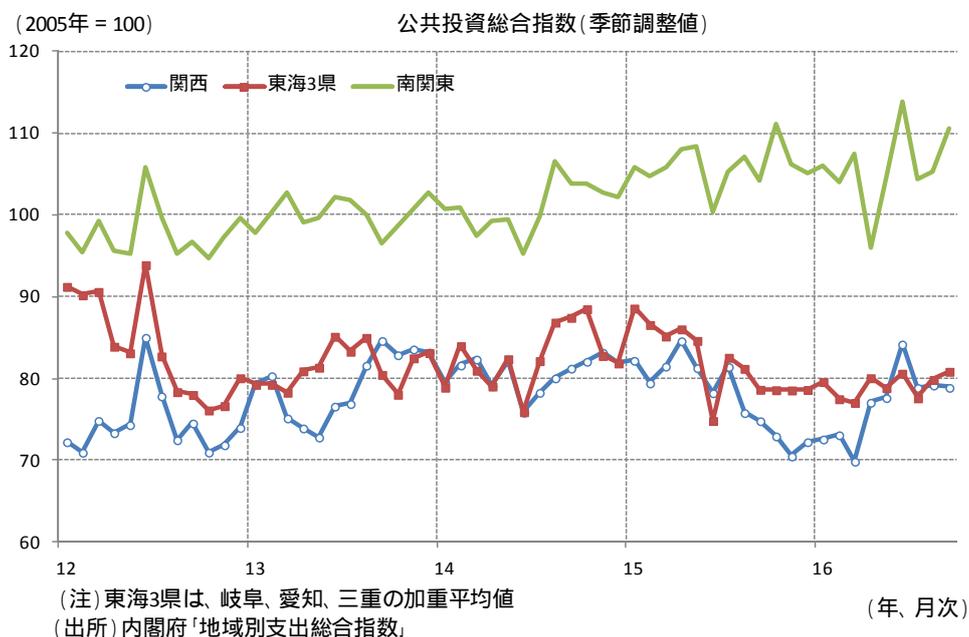


## 8. 公共投資 ~ 増加基調で推移している

11月の近畿地区の公共工事請負額は、前年比 - 11.7%の754億円と2ヶ月連続で減少したが、年度累計の前年比では増加が続いている。11月は、府県別では奈良が増加したが、他の2府3県は減少した。また、発注者別では、国、地方公社、その他は増加したが、独立行政法人、都道府県、市区町村は減少した。先行きは、16年度第二次補正予算の執行などにより、増加基調での推移が見込まれる。

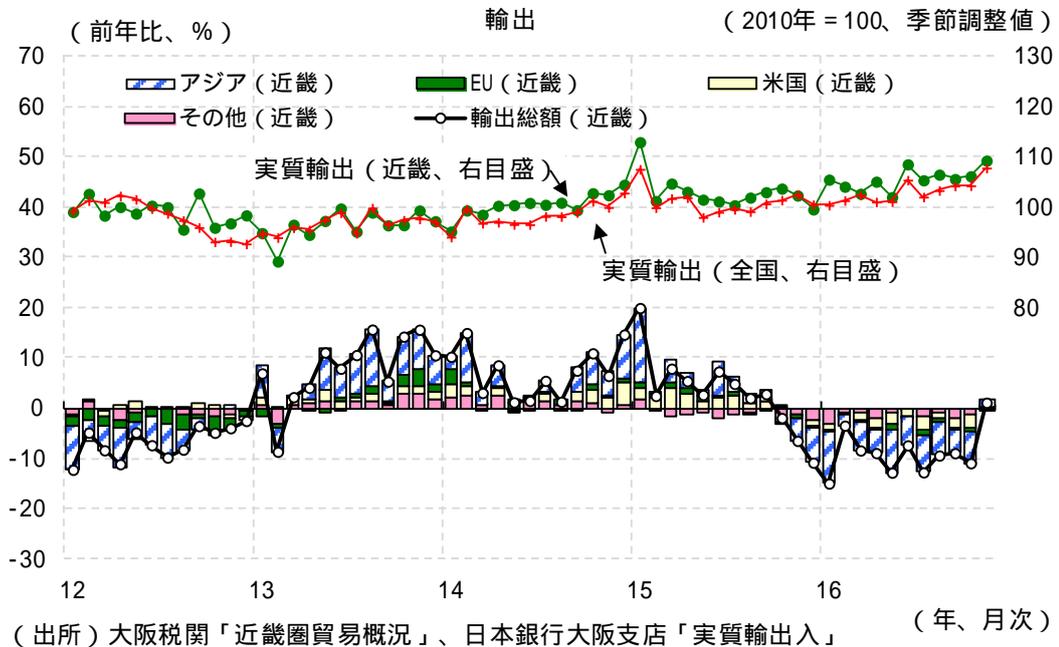


内閣府が11月に公表した地域別公共投資総合指数によると、関西の工事進捗ベースでの公共投資は、15年度に入って以降減少してきたが、16年度に入ってから増加したが、足下では増加が一服している。

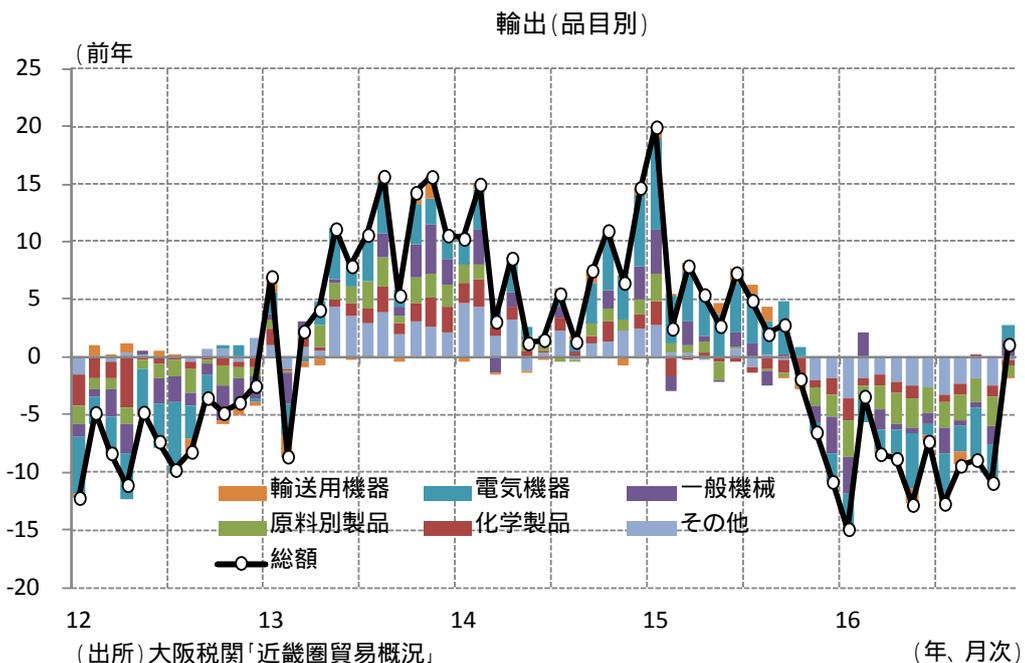


9. 輸出入 ~ 輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい

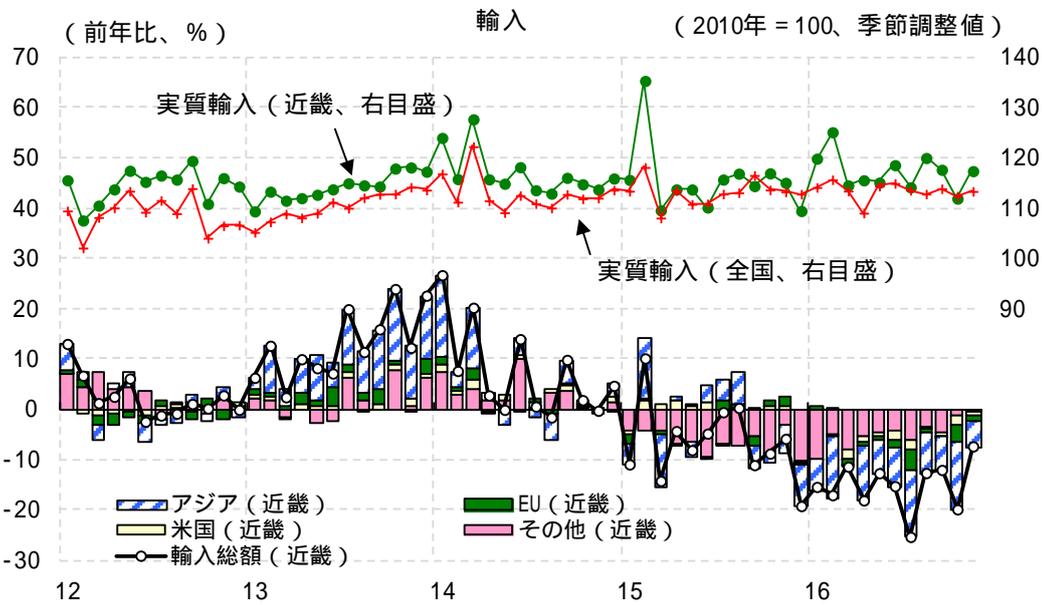
11月の近畿地区の実質輸出は前月比+2.9%と2ヶ月連続で増加し、持ち直しの動きが見られる。また、11月の名目輸出額(速報)は前年比+1.1%と14ヶ月ぶりに増加した。地域別では、米国は13ヶ月連続で減少したが、アジアは13ヶ月ぶりに、EUは14ヶ月ぶりに増加した。今後については、海外経済の緩やかな回復が続く中、緩やかな持ち直しが見込まれる。



11月の名目輸出額(速報)を品目別にみると、鉄鋼(前年比-15.1%)、科学光学機器(同-11.2%)などが減少したが、原動機(同+28.4%)、半導体等電子部品(同+6.7%)などが増加した。



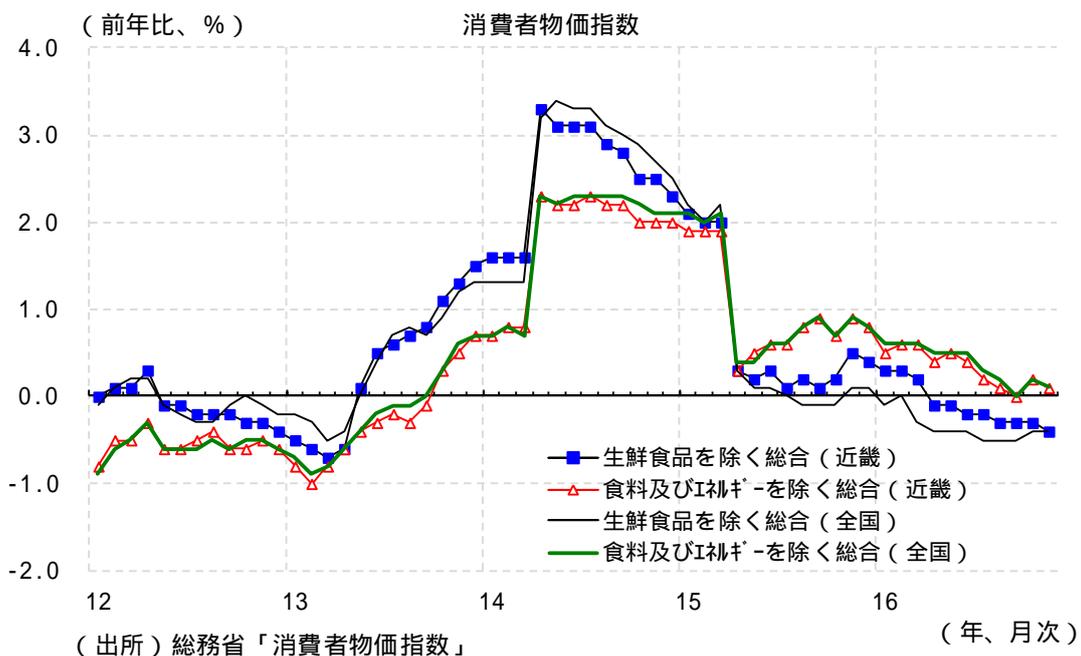
11月の近畿地区の実質輸入は、前月比+4.9%と3ヶ月ぶりに増加したが、均してみると横ばい圏での推移が続いている。一方、11月の名目輸入額(速報)は前年比-7.3%と15ヶ月連続で減少した。地域別では、アジア、米国、EUなどが減少した。品目別では、無機化合物、石炭などが増加したが、医薬品、衣類及び同付属品などが減少した。今後も、国内需要動向を反映し横ばい圏の推移が見込まれる。



(出所) 大阪税関「近畿圏貿易概況」、日本銀行大阪支店「実質輸出入」 (年、月次)

10. 物価 ~ 緩やかに低下

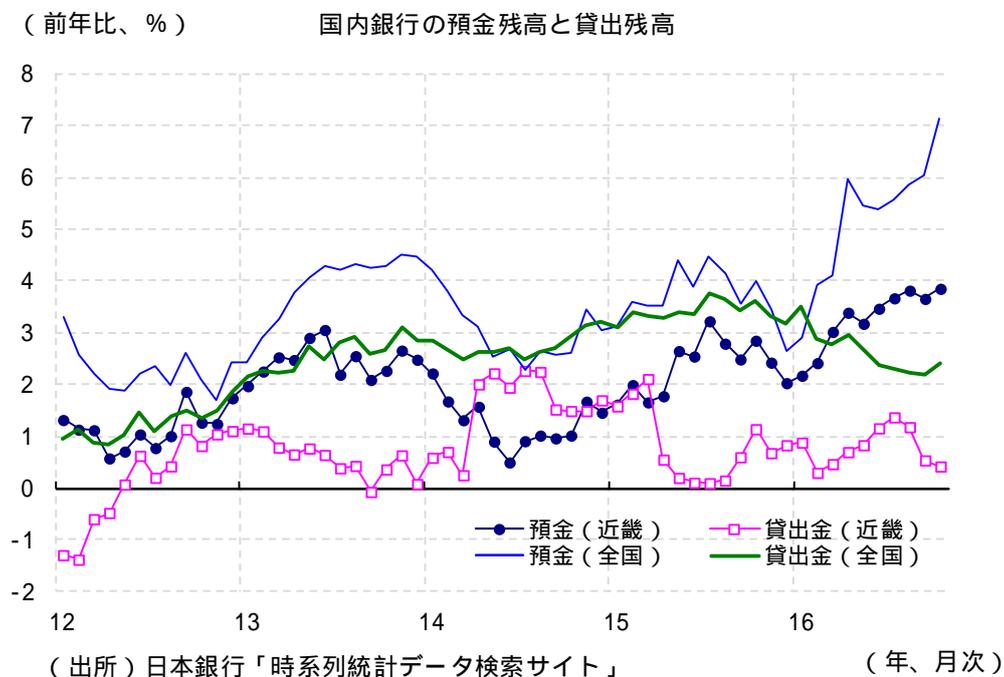
11月の近畿圏の消費者物価は、生鮮食品を除く総合は前年比-0.4%と8ヶ月連続で低下した。食料品価格は上昇が一巡し、エネルギー価格は下落している。食料・エネルギーを除く総合では同+0.1%と2ヶ月連続で上昇した。今後は、エネルギー価格の下落は一巡してきており、円安による輸入物価上昇の影響もあって、消費者物価の前年比マイナス幅は緩やかに縮小する見込みである。



(出所) 総務省「消費者物価指数」

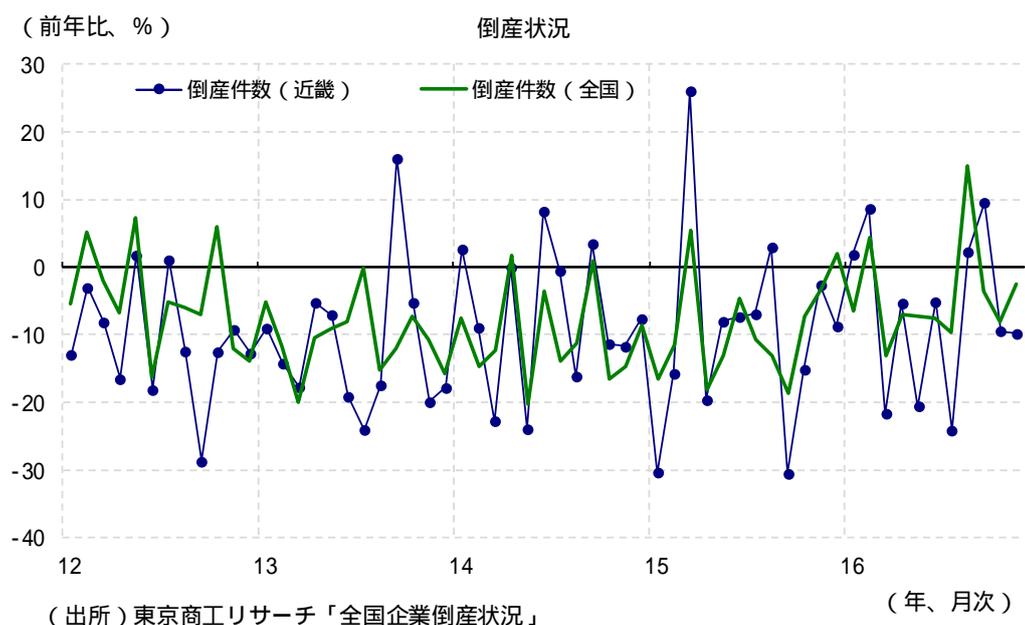
## 11. 金融 ~ 預金、貸出ともに増加

10月の近畿地区の預金残高(国内銀行ベース)は、前年比+3.9%の111.5兆円となった。定期性預金は前年比で減少が続いているが、要求払預金が増加している。また、近畿地区の10月の貸出残高(国内銀行ベース)は、同+0.4%の60.0兆円と増加した。日銀大阪支店では、企業向けや住宅ローンの増加等が貸出の増加要因とみている。



## 12. 倒産 ~ 倒産件数は減少、負債総額は増加

11月の近畿地区の倒産件数は、前年比-9.8%の166件(前年同月184件)と2ヶ月連続で減少した。府県別では、滋賀は5件(同2件)、京都は21件(同17件)、奈良は8件(同7件)と増加したが、大阪は94件(同99件)、兵庫は29件(同46件)、和歌山は9件(同13件)と減少した。一方、倒産企業の負債総額は、パナソニックプラズマディスプレイの特別清算により、同+3600.5%の5,159億円と大幅に増加した。



## 【全国及び東海地区との比較】

## 【今月の景気予報】

		3ヶ月前~	現況	~3ヶ月後			3ヶ月前~	現況	~3ヶ月後
景気全般	全国	→		→		全国	↗		↗
	東海	→		→	輸出	東海	↗		↗
	関西	→		→		関西	↗		↗
個人消費	全国	→		→		全国	→		→
	東海	→		→	輸入	東海	→		→
	関西	→		→		関西	→		→
住宅投資	全国	↘		→		全国	↗		↗
	東海	→		→	生産	東海	↗		↗
	関西	→		→		関西	↗		↗
設備投資	全国	→		→		全国	↗		→
	東海	→		→	雇用	東海	→		→
	関西	→		→		関西	↗		→
公共投資	全国	→		↗		全国	→		→
	東海	↘		→	賃金	東海	→		→
	関西	↗		→		関西	→		→



: 晴れ



: 薄日



: 曇り



: 小雨



: 雨

(注) 1. 3ヶ月前~、~3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

2. シャド一部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

3. 全国は12月2日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

## 【各項目のヘッドライン】

項目		11月のコメント	12月のコメント
1. 景気全般	全国	横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの兆しが見られる	横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる
2. 生産	全国	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが続いている
	東海	横ばい圏で推移している	一部に持ち直しの動きが見られる
	関西	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが見られる
	東海	横ばい圏で推移している	持ち直しの動きが見られる
	関西	横ばい圏で推移している	持ち直しの動きが見られる
5. 個人消費	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き
	関西	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き
6. 住宅投資	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	持ち直しが一服	横ばい圏で推移している
7. 設備投資	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	増加している	増加が一服している
	関西	持ち直しの動きが一服している	持ち直しの動きが一服している
8. 公共投資	全国	増加に転じる	横ばい圏で推移している
	東海	弱含んでいる	弱含んでいる
	関西	増加基調で推移している	増加基調で推移している
9. 輸出入	全国	輸出は持ち直しの動きが見られる、輸入は横ばい圏で推移している	輸出は持ち直しの動きが見られる、輸入は横ばい圏で推移している
	東海	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい
	関西	輸出、輸入ともに横ばい	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい
10. 物価	全国	企業物価、消費者物価とも下落	企業物価、消費者物価とも下落
	東海	低下している	緩やかに低下
	関西	緩やかに低下	緩やかに低下
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに増加
	関西	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数は減少、負債総額は増加

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

## 「グラフで見る関西経済」の見方

### 【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

### 【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

### (注)

現況を問わず天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

### 【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

### 【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

### 【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

### 【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

### 【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

### 【全国及び東海地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国(グラフで見る景気予報)と関西地区(グラフで見る関西経済)の判断と、一覧表で比較。

#### - ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。